

「なまずの会」総会の概要

板寺一洋*、伊東 博*

1. はじめに

1976(昭和51)年5月に発足した「なまずの会」は、2006(平成18)年に、ちょうど30周年を迎えました。元温泉地学研究所所長で、なまずの会初代会長でもある故大木靖衛さんは、「なまずの会回想録」(大木、2000)の中で、発足当初の会の方針を次のように述べています。「日本に住むかぎり、私たちは地震から逃れることはできない。どうせ逃れることができないのなら、こちらから無理におしかけて地震と親類づきあいをしてみよう。誠心誠意のおつきあいをすれば、地震の前兆がつかめるかも知れない。それには何も異常のない単調なときの観察を続けることが一番重要である。こうしていれば地震予知につながる「なまずのたより」が見つかるに違いない」

さらにこの回想録の中では、「発足当初、地震なまずとのおつき合いは、それぞれの会員が工夫して自分に合った方法で行うことにしていた」が、やがて「変化を数値で表現でき、連続観測が容易であること」、そして何より「井戸の水位こそ地盤の変動を鋭敏に反映するに違いないと期待していた」ことなどから、会の活動の中心を井戸の水位観測に置いた経緯が述べられています。

発足から30年が経過した現在でも、27名の観測会員の方が、当初と変わらない熱意をもって地下水位の観測を続けていらっしゃいます。しかしながら、この間に、地震予知に対する考え方も含めた科学・社会の状況は大きく変わりました。なまずの会においても、会員の高齢化が進んだほか、観測機器(なまずメーター)の老朽化・更新といったことが課題となっています。そこで、30周年の節目に、今後の活動方針等について意見交換するため総会が開催されました(写真1)。



写真1 「なまずの会」総会の様子

* 神奈川県温泉地学研究所 〒250 0031 神奈川県小田原市入生田 586
報告, 神奈川県温泉地学研究所観測だより, 通巻第57号, 59-64, 2007.

2. なまずの会総会

なまずの会総会は、2006(平成18)年6月9日(金)の13時から、温泉地学研究所会議室で開催されました。主な議事については、以下の通りでした。

2. 1. 会則の改正等について

これまでの会則には、会の事務局を温泉地学研究所内におくことや、会長を温泉地学研究所長とすることなどが定められていました。事務局から、今後、会の活性化を図るため、会員の中から副会長1名を選び、会の運営に携わっていただくことを提案し、了承されました(表1)。また、「なまずの会」水位観測者等功労者表彰要綱を定め、それにもとづき、長年観測を継続されている観測会員の功績を表彰する制度(表2)について提案があり、これも了承されました。

2. 2. 観測等について

観測等に関する意見についておたずねしたところ、長い期間の結果をまとめたグラフを送っていただいているが、期間が長くなると変化が読み取りにくいとか、自分で長期間の作図をしたいのでA3サイズのグラフ用紙の利用を考慮していただけないかといった意見が出されました。

また、事務局からは、従来の観測はがきによるデータのやり取りに加えて、会員自身でパソコンを用いてデータ管理をしている方がいることや、データ入力作業の効率化などを考慮して、電子メールを利用した送受信にも対応したいと提案を行いました。これについては、事務局が通信はがきと同じ書式のワークシートを作成し、何人かの会員の方との間で試行してみることにになりました。

表1 「なまずの会」の会則(抜粋)

- | | |
|----|--|
| 1 | 本会は「なまずの会」と称する。 |
| 2 | 本会の事務所は神奈川県温泉地学研究所内におく。 |
| 3 | 本会は地震に関心をもつ次の会員によって構成する。
a 観測会員 b 一般会員 |
| 4 | 本会は随時次の事業を行う。
a 地下水位等の観測
b 地震に関する知識の普及
c 地震に関する情報の交換
d 会員相互の視察をはかる
e その他 |
| 5 | 本会には次の役員をおく。
会長 1名 副会長 1名 幹事 若干名
会長は温泉地学研究所所長とし、副会長、幹事は会長が委嘱する。 |
| 6 | 会長は本会を代表する。副会長は会長を補佐し、幹事は会の事務事業を分担する。 |
| 7 | この会の運営に係わる決定は観測会員の通信による意志表示の過半数によって決定する。 |
| 8 | 本会に加入しようとする人は「なまずの会加入申込書」を会長に提出することにより、会員名簿に登録されるものとする。 |
| 9 | 観測会員については、別途規定に基づき表彰を行うこととする。 |
| 10 | 観測会員の観測成果は定期的に公表し、その利用は地震予知研究に貢献する調査研究及び会長が適当と判断するものに認める。
また、その場合、観測成果利用者は、その結果を会長に報告するものとする。 |

表2 「なまずの会」水位観測等功労者表彰要綱(抜粋)

<p>(趣旨) 第1条 この要綱は、水井戸や温泉の水位、温度等を観測して地震の前兆を捉え、地震の予知研究に寄与することを目的に、「なまずの会」(昭和51年4月発足)会員として、水井戸や温泉の水位、温度等の観測を継続して行い、その功績が顕著なものの表彰について、必要な事項を定めるものとする。</p> <p>(表彰の主体) 第2条 表彰は、なまずの会観測会員(以下、「会員」という。)について、なまずの会会長(以下、「会長」という。)が行う。</p> <p>(表彰の対象) 第3条 表彰を受けることができるものは、次の各号のいずれかに該当する個人又は団体とする。 (1) 会員として、10年以上継続して観測にあたり、顕著な功績をあげたもの。 (2) 会員として、20年以上継続して観測にあたり、顕著な功績をあげたもの。 (3) 会員として、30年以上継続して観測にあたり、顕著な功績をあげたもの。</p> <p>(候補者の推薦) 第4条 なまずの会事務局は、第3条の規定により表彰を受けるにふさわしい個人又は団体があると認めるときは、当該個人又は団体を被表彰候補者として会長に推薦することができる。 2 候補者の推薦は、推薦書(様式1)による。</p> <p>(被表彰者の決定) 第5条 会長は、前条の規定により推薦された候補者の中から被表彰者を決定する。 2 会長は、被表彰者の決定にあつては、必要に応じ会員以外の者の意見を聞くことができる。</p> <p>(表彰の方法) 第6条 表彰は、感謝状により行う。この場合において記念品を贈ることができる。</p> <p>(表彰の時期) 第7条 表彰は、原則として推薦があつた当該年度の総会開催時に行うものとする。ただし、特別の理由がある時は、この限りではない。</p>

また、異常検知時の連絡や広報活動に関連して、ホームページの掲示板のようなものを設け、誰でも書き込み・閲覧ができるようにしてはどうかといった意見も出されました。

会員間の交流、情報交換を目的とするという趣旨で会員名簿が必要だという意見も述べられました。会員名簿については、個人情報取扱に注意しなければなりませんので、事務局が、個々の会員の同意を確認の後、作成することになりました。

2. 3. 会員の拡充について

今後、会の活性化を図っていくためには、広報活動などを通して、観測会員の拡充も図っていく必要があります。事務局では、神奈川県が実施する防災訓練や防災フェア等の会場で、なまずの会における地下水位の観測についてPRを行っています。今後も講演会などの機会に、地震に関する知識の普及を進めるほか、温泉地学研究所のホームページを利用した活動紹介や会員募集を行っていきたいという方針について説明しました。また、新たに、温泉温度も観測項目に加えて、観測していただける方の会員化を進めていることを報告しました。



写真2 長年にわたる観測に対する感謝状

3. 感謝状贈呈

今回の総会で了承された「なまずの会」水位観測者等功労者表彰要綱に基づき、20年および30年間観測を継続された会員に感謝状(写真2)と2匹のなまずをデザインした「組み木」(写真3)が記念品として贈呈されました。

また、もう一つの記念品として、会員の大木博子さんからは、なまずの会初代会長であり2003(平成15)年1月に逝去された大木靖衛さんを偲んで編集された、故人の画集(写真4)が贈呈されました。これらの感謝状と記念品は、総会に欠席された会員の方の手元にも、郵送等の形で届けられました。



写真3 2匹のなまずをデザインした「組み木」



写真4 大木靖衛さんの画集

4. おわりに

議事の中では、ここで述べた項目以外にも、会の活動に関わる研修会や観測だよりの今後について、事務局の考えを聞いていただきました。

年1回開催している研修会は、地震に関連した情報収集や他の観測会員の方との交流などを目的としています。参加者からは、有意義であるとの意見が多く寄せられています。事務局では、今後も研修会を継続させていきたいと考えています。

観測だよりは、発足当時、会報としての意味合いが強かったのですが、現在では温泉地学研究所の報告書の一部となっています。観測会員の方には今までどおり送付していますが、一般会員への配布については削減する方向で整理を進めています。内容については、トピックス等として会員の方々からの寄稿を掲載するなどして、いっそう充実したものになりたいと考えています。

総会では、形式にとらわれず、ざっくばらんな意見交換ができたと考えています。事務局では、今回、残念ながら出席いただけなかった方からも御意見をいただき、なまずの会の活動を、よりよいものにしていきたいと考えております。

謝辞

記念品として贈呈された「組み木」は、井上昭雄さん、井上キクさん御夫妻の御好意により製作していただいた手作りのものです。また、なまずをモチーフにしたデザインの決定にあたっては、小黒三郎さんから貴重な助言をいただきました。以上の方々に、心より感謝申し上げます。

参考文献

大木靖衛(2000) なまずの会回想録，温地研観測だより，50，1-14．